

## 令和7年度 土浦日本大学高等学校自己評価結果

令和8年度 取組目標とその方策			
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教育活動 (教務)	特定の教員に依存しない教務部の組織づくり	業務内容が年々複雑化する一方で業務に慣れた教務部員の異動や退職が見られる中、業務の引継ぎの重要性が増している。年度当初の組織図作成にあたり、若手を育てる体制の構築をより一層意識していく。また、引継ぎ内容の文書化も引き続き取り組んでいく。	教務部会においても取り組み方策を共有しながら、各担当チームと適宜コミュニケーションをとりながら業務を進めていく。
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教科指導 (教務)	新カリキュラムの円滑な実施	グローバルスタディーコースでは2、3年生の理系において新カリキュラムがスタートする。探究活動に重きをおいた理数探究基礎および理数探究の科目がメインとなる改定であり、将来の進路にも直結するものとなる。この1年の取り組み内容をコースや教科との連携のもと注視していきたい。	教科主任会議での情報の共有やコース主任との情報交換を通して、カリキュラムの進捗状況を適宜確認していく。
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
学校生活への配慮 (生徒指導)	①挨拶の励行	学校生活の基本である挨拶をきちんと行うことで基本的な生活習慣の礎としたい。そのためにも我々教員が挨拶をしっかり行い生徒の手本となる必要がある。また、生徒会やマナーアップ委員会等のあいさつ運動も巻き込み自然と挨拶する文化を醸成していく。	年間を通して実施していく。
	②端正な服装頭髪の徹底	コースや学年間で温度差がなく、同じスタンスでの指導が出来る雰囲気作りと教職員会議等で状況の共有を行っていく。	新入生ガイダンス年間を通して実施していく。
	③いじめの根絶	いじめ防止対策室・教育相談部・保健室・カウンセラーとの連携を図り、いじめの要因の早期発見・早期対応を行い、大きな問題に発展しないように努める。SNS使用のルールづくりを促すと共に、情報モラル教育を要所要所で行っていく。生成AIを利用したディープフェイクなどの悪用について注意喚起していく。	新入生ガイダンス年間を通して実施していく。
	④社会のルールやマナーの遵守	登下校における問題点を週報や朝の打合せで随時発信し、担任がHR等での継続的な指導を行うことができる環境作りに努める。ルールやマナーを守り安全に登下校できるようにし、保護者に対しても送迎の自粛を促していく。自転車通学者の登下校時における自転車乗車時のヘルメット着用の義務化は3年目に入り、全学年がヘルメットを着用することとなる。教員の目が届かない場所でも正しくヘルメットの着用ができるよう指導を行っていく。引き続き、保険の加入を必須とする共に、自転車安全点検及び通学安全指導会を実施する。学校内外におけるあらゆる場面での立ち振る舞いについて、他者の立場になって考え行動できるよう促す。	教育講座 自転車安全点検 通学安全週間 年間を通して実施していく。
校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
生徒会・部活動 (生徒指導)	ボランティア活動、常任委員会の活性化	ボランティア活動は月に1回以上のペースで主催できている。参加者は10～30名程度で確実性が高い。常任委員会は年間を通じて定期的な活動ができていない。  生徒会主催によるボランティア活動の計画 土浦市、土浦市教育委員会、土浦市社会福祉協議会からの依頼によるボランティア活動参加 石岡市観光協会からの依頼によるボランティア活動への参加 他校とのボランティア活動の計画 学園三校生徒会の合同研修 常任委員会の活性化	通年で実施 とくに常任委員会は学期に1回以上の開催を計画する 活動の記録を残す

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
進路指導	① 日本大学学校推薦型選抜への適切な対応	日本大学との良好な信頼関係の維持に努めながら、入試に係る情報は、通知され次第速やかに学年会や教職員会議で周知し、教員間の共通認識を図る。基礎学力到達度テスト対策室やコース・学年と緊密に連携して、コース・学年間での温度差のない指導に努める。調査書作成等の事務作業にあたっては、教員の負担軽減を図りながら、迅速かつ正確な作業に努める。家庭との意思疎通を十分に図りながら、生徒・保護者にとって満足度の高い進路選択となるよう尽力する。通信制課程在籍生徒の増加を鑑み、よりいっそう緊密な連携を図る。合格発表後の入学手続や入学前学習に関する事前指導を徹底する。	日本大学からの情報はその都度伝達していく。教職員へは、学年会・教職員会議で情報を伝える。保護者・生徒へは、懇談会・面談を通じて詳細に伝えていく。
	② 国公立大学・難関私立大学への合格者数アップ	各大学の入試等の情報を積極的に収集し、国公立大学入試対策室およびコース・学年への提供に努める。特に、地元国公立大学とは連携を密にし、オープンキャンパスや入試説明会、研究室体験等への、生徒・教員の積極的な参加を促す。学校推薦型選抜や総合型選抜のなおいっそうの拡大を視野に入れ、早期より推薦入試対策を実施する。関連して、高大連携プログラムのあり方を検討し、積極的に活用する。また、大学側に働きかけ、難関学の推薦指定校枠の拡大を図る。総合進学コースの一般入試受験者への進路指導・教科指導を強化する。コース改編や年内入試の拡大を見据え、「推薦入試に関する基本方針」の見直しを遅滞なく行う。	年間行事予定及び大学入試スケジュールに沿って実施する。
	③ キャリア教育の充実	生徒の進路実現に資する講演会や講座を、適切な時期に開催するとともに、生徒の実状やコース・学年の意向を再確認しながら、必要に応じて行事の内容や開催時期の見直しを図る。また、生徒の知的好奇心や関心を刺激するために、職業や学問、大学に係る体験会や講演会の情報を進路指導部情報サイト等を通して発信し、積極的な参加を促す。高大連携が盛んになる現状において、日本大学を始めとした大学との連携のあり方を積極的に検討する。	年間行事予定及び大学入試スケジュールに沿って実施する。
	④ 調査書・進路統計・各種報告書の適切な処理	調査書や推薦書の作成にあたっては、日程や手続きの手順を精査し、作業の効率化と教員の負担軽減を図りながら、正確・確実・迅速な作業に努める。そのための一方策として、過去の推薦書や調査書、志望理由書の文例等を参考資料として共有することで、各種書類の質的向上と作業の効率化を図る。進路統計や各種報告書、合格体験記等を作成し、必要かつ有効なデータを適切な時期に提供する。	年間行事予定及び大学入試スケジュールに沿って実施する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
体育施設	教職員・生徒の安全管理及び体育館・体育施設の管理の徹底	体育館・グラウンド・霞ヶ浦桜グラウンドについては、事務局と連絡を取り、老朽化で危険な箇所を確認して直ちに補修を行う。また、老朽化だけではなく、ボールがぶつかったり、生徒がぶつかったりして、破損するところも同様である。しかし、「壊れたら直す」の前に「壊れないように」使用する指導も行う。常に安全管理ができるように年間を通して見回る。右桜グラウンドは、芝生が剥げている箇所が数箇所あり、コースも砂量の違いのせいか、全てが均等になっていない。芝がはがれると足をとられ怪我をしてしまう可能性があり、砂量が異なると滑ってしまう可能性もあるため、季節もみながら年間を通して整備できるように点検していきたい。事務局担当者と連携をして、年間を通して施設を見回り確認管理をする。危険なところが見つかり次第、直ちに事務局担当者に連絡して修理を依頼し、怪我や事故のないように安全管理を徹底していきたい。	年間を通じて実施

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
保健衛生	生徒及び教職員の健康保持と健康管理能力の増進	・教育相談部や保健室で得られた生徒情報を学校全体で共有し、生徒対応に活かす。 ・教職員のストレスチェックやカウンセリングを行い、心的負担の軽減を図る。 ・感染症について、学校全体で情報を共有し、さらに対策予防を強化していく。	年間計画を通して実施。
	環境の保健安全の確保	・衛生委員会において問題点を話し合い、学校の安全・安心のために施設・設備の改良改善を重ねていく。 ・生徒の心身の発育発達を促す環境づくりに配慮する。	年間を通して実施していく。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教育相談	生徒の学校生活への適応と、教員の不適応生徒への対応を支援する。	<p>①新入生に対する教育相談ガイダンスを実施し、新生活の円滑なスタートを援助する。なお、教育相談ガイダンスの内容は以下の通り。</p> <p>前半) 生徒ラウンジにて構成的グループエンカウンター (50分) 後半) 教室にて教育相談室の利用案内等 (50分)</p> <p>②総進2年・特進2年に対して新クラスでの円滑な人間関係の構築のため、教育相談部からいくつかのエクササイズを提示し、担任の先生に1つ選んでもらいグループエンカウンターを実施してもらう。</p> <p>③「学校不適応調査」(年6回)を実施する。</p> <p>④「高校生活に関する調査」(年3回)に教育相談に関する項目を設け、調査する。</p> <p>⑤カウンセリングを随時実施する。</p> <p>⑥本校の教育相談体制を、保護者に周知徹底し、連携を図る。 →保護者会資料に教育相談の内容を提示したり、「スクールカウンセラーだより」を年6回、本校ホームページにアップするなど。</p> <p>⑦必要に応じて、特別支援教育としての個別指導計画を立案する。</p> <p>⑧スクールカウンセラーと連携し、担任の不適応生徒への対応を支援する。</p> <p>⑨教育相談部会を定期的に開催し、不適応生徒情報の共有を図る。</p> <p>⑩スクールカウンセラーの来校日を毎日とし、上記の支援体制を強化する。</p>	<p>①4月に実施。</p> <p>②4月に実施。</p> <p>③5・7・9・11・1・3月に実施。</p> <p>④5・10・1月に実施。</p> <p>⑤随時実施。</p> <p>⑥5・11・3月及び随時実施。</p> <p>⑦必要に応じて随時実施。</p> <p>⑧必要に応じて随時実施。</p> <p>⑨基本的には毎週月曜日・木曜日だが、必要に応じて随時実施。</p> <p>⑩継続して実施。</p>

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
いじめ防止対策	いじめの未然防止	<p>①生徒集会の機会を用い、全校生徒に対していじめ防止の講話を行う。</p> <p>②「いじめの根絶」という全校共通の生活目標を4週に1度掲げ、担任からの講話を行う。</p> <p>③「ネットモラル勉強会」を入学直後の1年生対象に実施し、保護者にも内容を共有することで理解を求める。</p> <p>④新クラスとなる1・2年生に対して教育相談部と連携した構成的グループエンカウンターを実施し、望ましい人間関係作りを支援する。</p> <p>⑤夏休み明けに「いじめ防止対策強化月間」を設け、学年の実情に応じたいじめ防止の取り組みを学年主体で実施する。</p>	<p>①各学期一度</p> <p>②4週に一度</p> <p>③4月</p> <p>④4月</p> <p>⑤9月</p>
	いじめの早期発見	<p>①全教員が「いじめ早期発見のためのチェックリスト」を常時携行し活用する。</p> <p>②生徒対象としてアンケート調査を年3回実施するほか、生徒には2者面談時に、保護者には3者面談時に聴き取り調査を行う。</p> <p>③教育相談部と連携して相談受け入れ体制を整える。</p>	<p>①随時</p> <p>②5月、10月、1月</p> <p>③随時</p>
	いじめへの適切な対応	<p>①把握した事案に対しては、いじめ防止対策室が組織として調査・認定・対応策検討を行い、担任・顧問等を支援することで特定教員による抱え込みを防ぐ。</p> <p>②被害生徒の支援を最優先しつつ、加害生徒の支援も行う。</p> <p>③関係保護者と情報を共有し、家庭における支援・指導を要請する。</p> <p>④重大事態が発生した場合は県に報告し、外部有識者の協力も得て対応に当たる。また、犯罪行為の場合は警察とも連携する。</p>	①②③④随時
	いじめの再発防止	<p>①事案に応じた再発防止策を検討し、その実行を確認する。</p> <p>②発生した事案を全教員が共有し、同種の事案の発生を防止する活動に繋げる。</p> <p>③いじめ解消については、「3ヶ月止んでいること」「被害生徒の心身の苦痛がないこと」を基準として判断する。</p>	①②③随時
教職員の共通理解	いじめ問題に対する教員の意識を向上させ共通理解を深めることを目的として、定期的の問題提起や情報提供を行う。	毎月一度	

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
図書	資格・入試関連資料の刷新と充実	①生徒の受験傾向に沿った入試関連資料や参考書等の充実を図る。 ②英検、TOEIC、TOEFL、IELTS、漢検、各種資格試験に関する資料を揃える。年度が古いものは廃棄し、新刊をレベルごとに購入する。進学・就職に有利となる資格取得に挑戦する生徒への提供、および指導する教員の参考資料として充実させる。 ③時事資料はタイムリーに購入する。小論文資料はテーマ別、学部別分野を重点的に揃える。	年度当初より取り組む
	活気ある図書委員会活動をを目指す	①係活動を見直し、生徒の意欲が高まる活動になるよう検討する。 ②委員会担当の先生に活動についての提案をいただき、連携して委員会活動を実施する。 ③「図書委員のお薦め本の展示」や「高校生のおはなし会への参加」といった、土浦市立図書館高校連携事業への参加を行い、外部との緩やかな繋がりを意識した委員会活動を継続する。 ④図書委員研修会への参加。研修会は各校の活動の様子が参考になり、また、図書委員自身への刺激ともなるため、希望生徒へは参加を促したい。	年度当初より取り組む

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
広報 (情報入試)	本校を周知する機会を増やし、受験生、入学者数の確保	令和8年度において生徒数を確保するためには本校を第一志望とする層をいかに増やすかが肝心であると考え。よって、単願推薦試験の受験数の増加を、第一目標とする。まず加点制度の充実を図る。加点対象となる部活動の幅を広げることで、より多くの受験生が評価を受けられるようにし、単願推薦の選択を後押しする。また、加点基準を明確にし、積極的な周知を行うことで、受験生が自身の実績を活かせる環境を整える。 次に高校無償化政策の動向を踏まえた給付型奨学金の運用をどのように実施するかを検討する。 併願受験生に対しては、個別面談を積極的に実施し、高校と受験生が直接相談できる機会を増やす。併願受験における優遇制度の周知を進め、本校への関心を高めるとともに、必要に応じて単願推薦の選択肢を提示し、志願者の増加につなげる。 国内では、既存の学習塾への訪問を継続するとともに、新たな塾にも定期的に訪問を行い、学校の特徴や入試制度の説明を強化する。これにより、より多くの受験生や保護者に本校の魅力を伝え、志願者の拡大を目指す。 海外入試については、現行の入試制度を精査し、新たな入試形態を導入することで、海外からの受験生の増加を図る。受験の利便性を向上させるとともに、現地での説明会開催やオンライン相談の充実を進め、海外在住の受験生が受験しやすい環境を整える。 これらの施策を通じて、単願推薦試験の受験生増加を実現し、併願受験生に対するフォローを強化することで、本校の志願者数全体の向上を目指す。	春から初夏（3月～6月）は、早期接触による志願者確保と国内外への広報活動の強化を進める。3月及び4月には学校公開イベントを開催し、中学2年生及び受験生に向けて本校の各コースの特色や教育内容について周知を図る。5月には国内での学校公開イベントに加え、海外入試に向けた現地訪問を実施し、日本人学校及び学習塾への広報活動を行う。6月には文化祭において入試相談ブースを設置する。  夏期（7月～9月）は、体験型イベントの充実と受験意識の向上を図る。7月には学校見学会を実施し、在校生による学校紹介や各コースの特色説明を行う。8月には部活動体験会を開催し、本校の部活動環境の魅力を体験できる機会を提供する。9月には入試説明会を実施し、入試制度や各コースの特徴を説明することで、受験生及び保護者の関心を高める。  秋から冬（10月～1月）は、個別対応の充実と出願につなげる取り組みを進める。10月から11月にかけて個別面談を実施し、受験方法や入試制度について丁寧な説明を行う。12月には出願受付を開始し、1月には入学試験を実施する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
管理運営 (教学)	①いじめ根絶	いじめ防止対策室を中心に、教員研修を目的とした講話や勉強会を通じて、全教員のいじめ防止に対する意識の更なる向上を目指す。学級での指導だけでなく、家庭との連携を通して生徒の更なる意識向上を促す。	年間を通して計画的に取り組む
	②国公立大学合格者数の向上	国公立大学受験対策室を中心に、大学入試制度の最新情報を確認しながら、適宜生徒に還元できるようにする。引き続き、東京大学、筑波大学等の国公立大学の合格者の向上をめざす。また、難関私大の合格者数向上のため、総合型選抜入試、学校推薦型入試についての研究を進める。	年間を通して計画的に取り組む
	③基礎学力到達度試験対策の充実	基礎学力到達度テスト対策室を中心に、付属推薦制度利用による日本大学合格者数の更なる向上を目指し、学園全体の目標達成に寄与していく。	年間を通して計画的に取り組む
	④新学習指導要領・大学入試改革への対応	探究活動の充実、情報活用能力の向上など、次期学習指導要領で求められることが想定される教育改革に対応すべく、付属校のメリットを生かした指導等、高大接続を踏まえた指導内容の研究を重ねていく。	年間を通して計画的に取り組む
	⑤ICT委員会の活動推進	学習指導だけでなく、あらゆる教育活動におけるICT機器の活用を意識する。特にAIを活用した指導の研究を進める。教員への研修、モラル、マナー教育も引き続き進めていく。	年間を通して計画的に取り組む

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
管理運営 (事務)	①予算編成(配分)方法の検証	教職員が一丸となり、各教務分掌の創意工夫をもって、新たな事業への予算の確保と予算編成(配分)方法の見直しを行う。	年間を通じて実施していく。
	②教育環境の充実・維持	教育環境の充実を図り、生徒が安心・安全に学校生活を送れ、学びやすいと実感する整備を心がけていく。令和8年度においては、生徒用シューズロッカーの更新及び2027年末に生産中止となる校内蛍光灯のLED取替工事を年次計画で実施するほか、本館エレベーターの取替更新、かすみがうら桜グラウンドの建物付属設備の更新等を行っていく予定である。	年間を通じて実施していく。
	③諸規程の見直し	諸規程全般について、社会的な要請、学校運営の現状等にあつた形で、必要に応じて改正を行い、新たな規程が必要な場合は制定する。改正・制定にあたっては、諸規程文中に、他の規程と関連しているものがないか確認を合わせて行う。	年間を通じて実施していく。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
庶務	継続性を持った取り組みと行事計画の見直し	式典、避難訓練、保護者関連行事など、令和7年度中に改善を図った内容を検証し、反省事項を改善していく。教員負担と保護者負担を天秤にかけながら、より良い学校行事となるように検討を進めていきたい。また、本校だけでなく、私学協会や中等教育と連携を密にし、無理のない行事計画を立案したい。	年間計画通りに実施して行く。
	父母と教師の会年次総会、防災計画の見直し	父母と教師の会年次総会では、オンラインと対面実施の両方の利点を活かした計画を立案する。また、防災計画については、令和7年度の研修会で得た知見を活かし、避難訓練を形骸化させずに、緊張感を伴って実施できるような工夫を行う。	年度当初より速やかに取り組む。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
総合進学コース (進学クラス)	①学習指導	1年生：「予習→授業→復習」の学習サイクルを徹底させ、弱点の早期発見と克服に努めさせる。模試や定期考査の結果を分析し、個々の学習状況の把握に努める。スタディサプリを積極的に活用させ、基礎から復習することで早期に苦手科目の対策を行う。 2年生：授業の重要性を説き、高校生としての学習スタイル「予習→授業→復習」が確立できるよう、スタディサポートや家庭学習時間調査などから、生徒一人ひとりの学習状況を把握し指導する。各種テスト後は、必ず振り返りをさせる。その上で、朝学習や週末課題、小テストを継続して実施し、自ら学ぶ力を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。 3年生：朝の時間を有効活用し、朝学習を継続して行き、基礎学力向上に努める。定期考査はもちろんのこと模擬試験や実力テストなどでは、準備→実施→自己採点・点検→復習のサイクルを確立させる。また、定期考査や模擬試験後にはきちんと振り返りをさせ、現状とその原因を明らかにした上で復習させ、弱点の克服と学習内容理解の深化に努める。学年と教科担当者が情報共有化を図り、生徒一人ひとりに責任をもって授業に臨む。	年間行事予定に基づいて実施する。
	②進路指導	1年生：進路適性検査やキャリアナビへの取り組み、卒業生講演会や各種講演会への参加を通じて、自己分析・自己理解をさせることで興味関心のある学問系統を認識させ、将来の職業を踏まえ適正な文理選択ができるように指導する。 2年生：進路適性検査などを通して、自己分析・自己理解ができるようにする。オープンキャンパスや各種講演会への積極的な参加を促し、大学への理解や興味関心を引き出し、適切な職業観を養い、明確な進路目標を持てるように指導する。 3年生：卒業生講演会や日本大学出張講義や体験授業など、各種講演会には目的意識を持って積極的に参加させ、日本大学を中心とした進路指導を行う。一人ひとりの適性に合った進路を見出すために、志望理由書作成や二者面談の結果を学年で共有し、進路指導を行う。また明確な進路目標を持たせながら志望理由書サポート講座に取り組みせ『将来何をしたいのか』を明確にし、進路を決定させる。他大学への進学者についても学年・教科と連携し、進路決定まで学年が一丸となって指導する。	年間行事予定に基づいて実施する。
	③生徒指導	1年生：土浦日大高校の生徒としてのルールやマナーを理解させ、落ち着いた学校生活を送れるようにする。また、「挨拶の励行」を常に意識させ、折り目正しい生活態度を養う。 2年生：自分勝手な解釈、理解、判断をせず、コミュニケーション能力を養い、相手を思いやる振る舞いができるよう指導する。学校やクラスの一員として、責任と自覚を持った行動ができるように指導する。 3学年：周囲の状況を把握し、集団内での自分の役割を正しく理解した上で判断や行動ができるように導く。高校生および社会人としての振る舞いができるよう指導する。	年間行事予定に基づいて実施する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
総合進学コース (スポーツクラス)	①学習指導	スポーツクラス集会、SHR、LHR、総合探究において、担任・学年主任から学習に取り組む態度や土浦日大の看板としての言動・行動がとれるよう啓蒙活動を行う。また、特技推薦クラブ顧問と連携を図り、同様の指導をしていただく。	年間行事予定に基づいて実施する。
	②進路指導	1学年時より卒業後の進路について、折を見て指導していくと共に、学級懇談会を通じて保護者にも進路への意識を高めていただく。基礎学力到達度テストについては、事あるごとに説明をしていく。また、スポーツ推薦、総合型選抜、学校推薦型選抜の違いを明確に理解させる。 2学年時から3学年時は、具体的な進路についてイメージさせていくようにする。特に日大志望でなく、スポーツ推薦にも該当しない生徒については、早期に目標を明確化させてそれに向けた学習を始めさせる。	年間行事予定に基づいて実施する。
	③生徒指導	クラス担任とクラブ顧問が連携を図り、クラスでの問題行動が起きないようにする。	年間行事予定に基づいて実施する。
	④特別活動指導	学校行事にも積極的に参加し、スポーツクラスから学校を盛り上げていくことを目標とし、他生徒からの信頼を受ける生徒となるよう指導を進める。	年間行事予定に基づいて実施する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
特別進学コース	①学習指導	<p>育てたい生徒像に「高い英語力を身に付けた生徒」「決定的な得意科目・得意分野を持つ生徒」「大学の研究内容を理解し、その領域に合わせて研究志望を作り、語れる生徒」の3点を掲げ、それを実現するための指導を行う。授業においては、口頭試問・グループ学習を随時取り入れ、知識重視の一方通行的な授業にならないように指導する。また、思考のプロセスを表現できる記述力を育てるために、定期テストではそれらを問う出題を必ず行い、厳密に採点する。</p> <p>1年：「計画的な学習習慣を確立し、その成果を模擬試験を通して検証することで、自ら設定した目標値に到達する力を育成する」学習の進め方や時間管理について継続的に指導し、学習への取り組み方を定着させる。定期考査と全国模試を活用し、到達状況を可視化するとともに、振り返りを行う。教科ごとの学習目標を明確にし、日々の学習への意識付けを行う。</p> <p>2年：「大学入試を意識した学習習慣を身につけさせ、全国模試で例年以上の結果を残す。」早期に志望大学を決定し、その目標に合わせた準備を始められるようにする。また、昨今の入試適性の特長から、英語の学力向上や英検2級の取得を推奨し、生徒の大学入試に対する選択肢を広げられるようにする。文系・理系に分かれたことから、生徒個々の状況を把握し、生徒の個性を伸長するような指導を行いたい。</p> <p>3年：「生徒一人ひとりの得意科目確立と成績上位層の倍増」全ての教科・科目の学習をすることは当たり前として、得意としていたり単純に好きであったりする科目への学習により注力できる環境を教科担当教員や課外授業、日々のホームルームなどを通して意識づけさせていく。年度当初より課外授業では、今年度同様に選択科目を設定し、自ら学ぶ・学びたいという姿勢を作れるよう促していく。</p>	<p>1年生 年間を通じて実施する。定期考査および全国模試後に成果分析を行い、必要に応じて指導内容の見直しを図る。</p> <p>2年生 年間を通じて実施する。定期考査や全国模試を小目標とし、その都度取り組みの見直しを行う。</p> <p>3年生 通年で実施する。</p>
	②進路指導	<p>進路における情報収集と正しい理解に努め、発信されている情報を精査し、それに対応する指導を実践していく。1、2学年は大学訪問や各種講座など積極的に見学・体験させることで、大学・学問研究を展開する。また、オンラインを活用した卒業生講演会など、効率的に実施できる行事の工夫に努める。3年次では志望理由書の作成を通して、志望大学学部学科への進学意欲を高める。また、学校推薦型入試を活用し、対象生徒に対して一般入試対策と平行して早期の推薦入試対策に取り組む。加えて、私大文系クラスの設置とそのカリキュラムの本格的な開始を踏まえ、私大合格者の数を充実させていく。</p>	<p>1年生 学問研究、文理選択。</p> <p>2年生 大学研究、推薦入試研究。</p> <p>3年生 志望理由書の作成、推薦指導。</p>
	③生徒指導	<p>特別進学コースの生徒としての誇りを持たせて、大きな声でしっかりと挨拶ができ、社会の一員としての自覚ある言動ができるように指導していく。現在、規範から大きく逸脱する生徒はいないが、生活態度に対しては、生徒に対して遠慮や妥協は絶対にしないようにする。担任による継続的な講話・指導を通して、いじめやSNSに関する注意を繰り返す。また、いじめ防止の観点からも他者受容のグループワークを計画・実施する。保護者や相談室とも連携し、生徒を心理面からサポートする体制を整える。</p>	<p>SNSについては、入学直後に指導の機会を設ける。いじめにつながりそうな案件は、最優先で対処する。学年集会を定期的に開催し、指導の機会とする。</p>
	④特別活動指導	<p>体育祭や文化祭、蓼科の合宿などの学校行事へ積極的に取り組ませて、集団への帰属意識を確立させ、協調性や他者に対する思いやりの心を育む機会とする。校外学習の機会を増やすことで協調性の育成を図る。また、インタレストラーニングの1・2学年合同実施を活用して、学年を超えた協働的な活動でできるようにする。</p>	<p>1年生の段階で、高校生活のリズム・ペース・習慣を整え、様々な事に前向きに取り組む姿勢を養っていく。</p>

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
グローバル・スタディ コース	①学習指導	グローバル・スタディコースカリキュラム改変に伴い、新しい探究活動内容を確立する。 ・文系・理系それぞれ個人探究課題を準備し、グループごとに探究活動を進める。 ・週1時間は、文系・理系それぞれ、“リサーチの意義と方法”の授業を通年で行う。 ・新しく設置された、理系探究科目において、指導方法を確立させる。 ・定期的に、グループごとに探究活動の進捗状況を発表する。	主体的に取り組む学習姿勢を身に付けさせる。
	②進路指導	生徒一人ひとりの興味関心を掘り下げ、個性を活かした進路指導を行う。 理系入試対策を進めるとともに、総合型・学校推薦型入試対策の見直しを進める。	総合探究・LHRに加え、各教科の授業にも協力を依頼し、年間計画を立てて進める。
	③生徒指導	日本で学び、国際社会で活躍するリーダーとしての資質を身につける。 1年はアイヌ研修、オーストラリア短期留学、2年はカナダ中期留学を通じて、マイノリティ理解を深める。それを通じて、望ましいリーダー像を常に模索しながら高校生活を送る。	総合探究・LHRに加え、コース集会も利用し、年間計画を立てて進める。
	④特別活動指導	学校行事及び部活動への積極的な参加 HRなどを通じて、部活動及び生徒会活動への積極的な参加を促す。	各行事に合わせ、事前・事後の指導を充実させる。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
情報処理	教育系のポートフォリオを導入する	まずは、校務ポータル側で、現状の校務を踏まえつつ、引き継げるもの、引き継がないもの、新規で作るものを精査しながらシステムを作っていく。	令和7年度のシステム的な年度更新が校務ポータル側で行えた場合は令和8年度後半中を目途に教育系ポートフォリオを稼働する。